

## 【16 島鉄フェリー Shimatetsu Ferry】



口之津港沖の船上から

島鉄フェリーでは、口之津港～鬼池港の航路上のあらゆる区間で“[南西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。フェリー屋上部には展望スペースがあり、ここから眺める 360 度の有明海のパノラマは絶景です。フェリーが横断する早崎瀬戸は、有明海の水の出入口に当たるため、潮の干満の度に早い潮流が発生し、日本三大潮流に数えられています。この潮流によってプランクトンが多く発生し、魚類が集まるため、それを狙うミナミハンドウイルカが定住しており、航路から見えることもあります。

本航路は、国道 389 号線の一部に位置づけられていますが、国道 389 号線は、雲仙天草国立公園を縦貫する道路で、阿久根市～長島～天草下島～島原半島～長洲～大牟田市と4県(鹿児島・熊本・長崎・福岡)をつなぐ道路です。この道路の通過市町村のうち、阿久根市以外はすべて[雲仙岳](#)が眺望できる市町村であり、ドライブしながら山の多様な表情を楽しむことができます。また、本航路は九州全県をつないで一周するトレイル“九州自然歩道”の一部でもあり、熊本県内のトレイルと[雲仙岳山中](#)を通る長崎県内のトレイルを結んでいます。

[雲仙岳](#)の山岳宗教は、701 年に僧・行基によって開かれたとされますが、行基は初め天草方面から[雲仙岳](#)を眺望し、“あそこで修行をしよう”と決意して島原半島に向かったと言われ、本航路はそれを追体験できる航路です。島原半島には、[雲仙岳](#)の化身とされる巨人“みそ五郎”の伝説があちこちに伝わっていますが、実は天草の五和町二江地区(鬼池の西隣)には、みそ五郎がみそを求めて[雲仙岳](#)から飛んできた、という伝説が残っています。また、両地域の真ん中にある湯島は、みそ五郎がお百姓さんの農作業を手伝った時に飛んでいった土でできた島との伝説もあります。ほかに両地域の大蛇が戦った伝説などもあり、古くからの両地域間の交流を物語っています。

その後、中世の時代には両地域では基督教の布教が進み、キリシタン大名のもと、南蛮貿易で繁栄しました。1563 年にイエズス会のルイス・アルメイダが口之津に入って島原半島での布教を開始し、口之津は九州管内区の基督教布教の拠点となり、1566 年には天草に入って生涯天草で布教を続けました。しかし、豊臣秀吉・徳川家康による基督教禁教以降、領主の交代も相まって、厳しい信徒弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。天草諸島側の激戦地である富岡城、島原半島側の激戦地である[雲仙岳南麓](#)の原城は、いずれも本航路から眺めることができ、当時の状況をしのばせています。

[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、島鉄フェリーで旅してみませんか？

● 島鉄フェリーの情報はこちら↓

島原鉄道株式会社 [http://www.shimatetsu.co.jp/one\\_html3/pub/default.aspx?c\\_id=64](http://www.shimatetsu.co.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=64)



鬼池港バス停から



鬼池港から